

人むすびの場

第32回テーマ

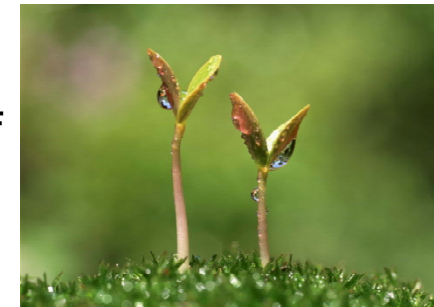
“**転換期の子育て支援を考える**”

～ハッピーアドバイスの現場から～

日時	平成23年2月22日(火) 午後7時～9時
会場	スペースU
企画運営	“人むすびの場”づくり企画運営チーム

人むすびの場”をともに創りませんか？

- 「むすひ(産霊)」とは、ものを生み出す力のことを表す古語です。場には、不思議な力が宿ります。何かが生まれ行くエネルギーに満ちています。
- 「人むすびの場」は、ご参加の皆さん全員が「場づくり人」として、思いと知恵を分かちあう「対話と創発の場」です。
- 他者との対話を通じて見えてくる自分自身の思いへの気づき、次なるステップへのヒント、自然と生まれるつながりの発展の機会としていただけたらと思っています。
- 私たちの世界は、「人と自然」「人と人」のつながりが薄くなり、様々な問題を抱えています。でも、世の中には人財、知恵もそこかしこにあり、結び合うことで問題解決のパワーも生まれてくるに違いありません。
- 今の自分の一歩が、世の中がよくなることにつながる。そんな互いの思いを分かち合うことから、「和・環」となって、何かが変わることを信じている人々の集まりにしたいと思います。
- 「人むすびの場づくり企画運営チーム」へも是非ご参画ください。
- 新しいアイデア・企画の提供など、もろもろご意見をお待ちします。



プログラム

19:00 ◆オリエンテーション 人むすびの場とは
“人むすびの場”づくり企画運営チーム 高重 和枝

19:05 ◆スピーチ
「転換期の子育て支援を考える
～ハッピーアドバイスの現場から」

明橋 大二(あけはし だいじ)先生
(真生会富山病院心療内科部長、スクールカウンセラー)

19:50 ◆人むすびカフェ
ファシリテーター 高重和枝

20:55 ◆本日のまとめ
21:00 終了
交流会(ピアンタ)



「転換期の子育て支援を考える」

～ハッピーアドバイスの現場から～

ゲスト 明橋 大二(あけはし だいじ)先生

(真生会富山病院心療内科部長、スクールカウンセラー)

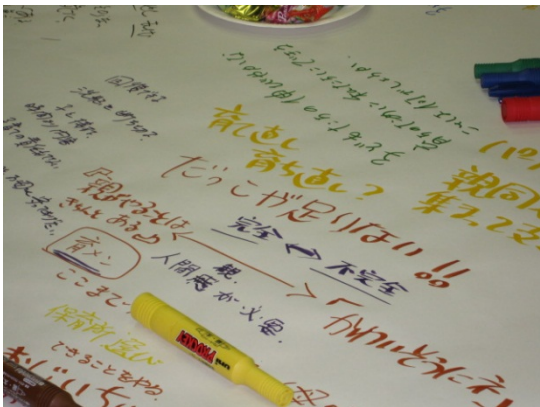
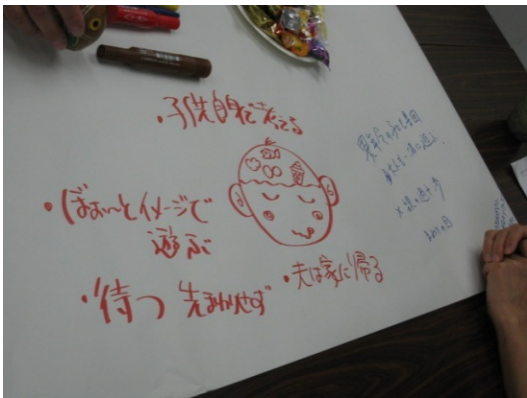
- 今の子どもをめぐる問題の根っこは、「自己評価の極端な低さ」にあります。子どもの自己評価は、すなわち、自己肯定感、自尊感情(Self-esteem)から生まれます。自分に自信の持てない子が多いのです。
- 摂食障害の人の手記に(一部抜粋引用)「私はやっぱり誰からも必要とされていないんだよ。誰からも、大切だと思われていない。…私の存在が、必要ないなら、今すぐ死ぬ。殺してほしい」というように、生きてていいんだ、と思えずに自傷行動を起こす人もいます。
- 今の日本の子どもたちの自己評価は決して高くないという調査結果があります。「自分はダメな人間だと思う」と答えた中学生の割合が、日本では56.0%、米国では、14.2%、中国は11.1%となっています。(H20年「中学生・高校生の生活と意識に関する調査」日本青少年研究所)他に、「自分は人から必要とされている」:30% 「そう思わない」:69%というデータもあります。(H18年 東京都立川市内中学校)
- 子どもにとって一番大切なのは、自己評価ですが、実は、親の自己評価も低いのです。これからの子ども支援の目標は、①子どもの自己肯定感を育てること、②親(特に母親)の自己肯定感を育てることにあると思います。
- 自己評価が確立するのは、0～3歳、この間にたっぷり甘えさせて、「私は大切な人間なんだ」「生きてていいんだ」「生まれてきてよかった」と思えるベーシック・トラスト(愛着関係)を育てることが大事です。そうすれば、3～6歳でしつけをし、自分と他人の区別がつくようにしていけば、その後、好奇心が出て勉強に向かえます。
- これからの教育再生改革は、子どもの自己肯定感を育むことです。サインを出している子どもに気づき、いつからでもやり直しはできるから、土台から育て直すことです。それには、親の自己肯定感を育てることです。
- 虐待予防の支援も必要です。虐待予防の6段階(リチャード・D・クルーグマン:元国際子ども虐待防止学会会長)は、第1段階には、国や親、大人が、児童虐待の存在を否定する時代が長年続きました。第2段階では、身体的な虐待の存在を認めました。(1961年、小児科医ケン「被殴打児症候群」から)第3段階から支援が始まり「かわいそうな子どもをひどい親から守ろう」と親子分離、通告、親権制限の法律ができました。第4段階では、「それだけでは何も解決しない」と親への支援が始まりました。第5段階の1980年代～欧米は最も表面化しにくい性的虐待に気づき、理解を深め、対応を模索しました。第6段階の1990年代～「発生の予防こそ大切」と発生予防活動が盛んになりました。体罰、しつけとして行われているものも禁止すべきという動きです。

子どもは
親や教師に認め
られることで幸
せになれます！

【明橋大二先生 経歴紹介】

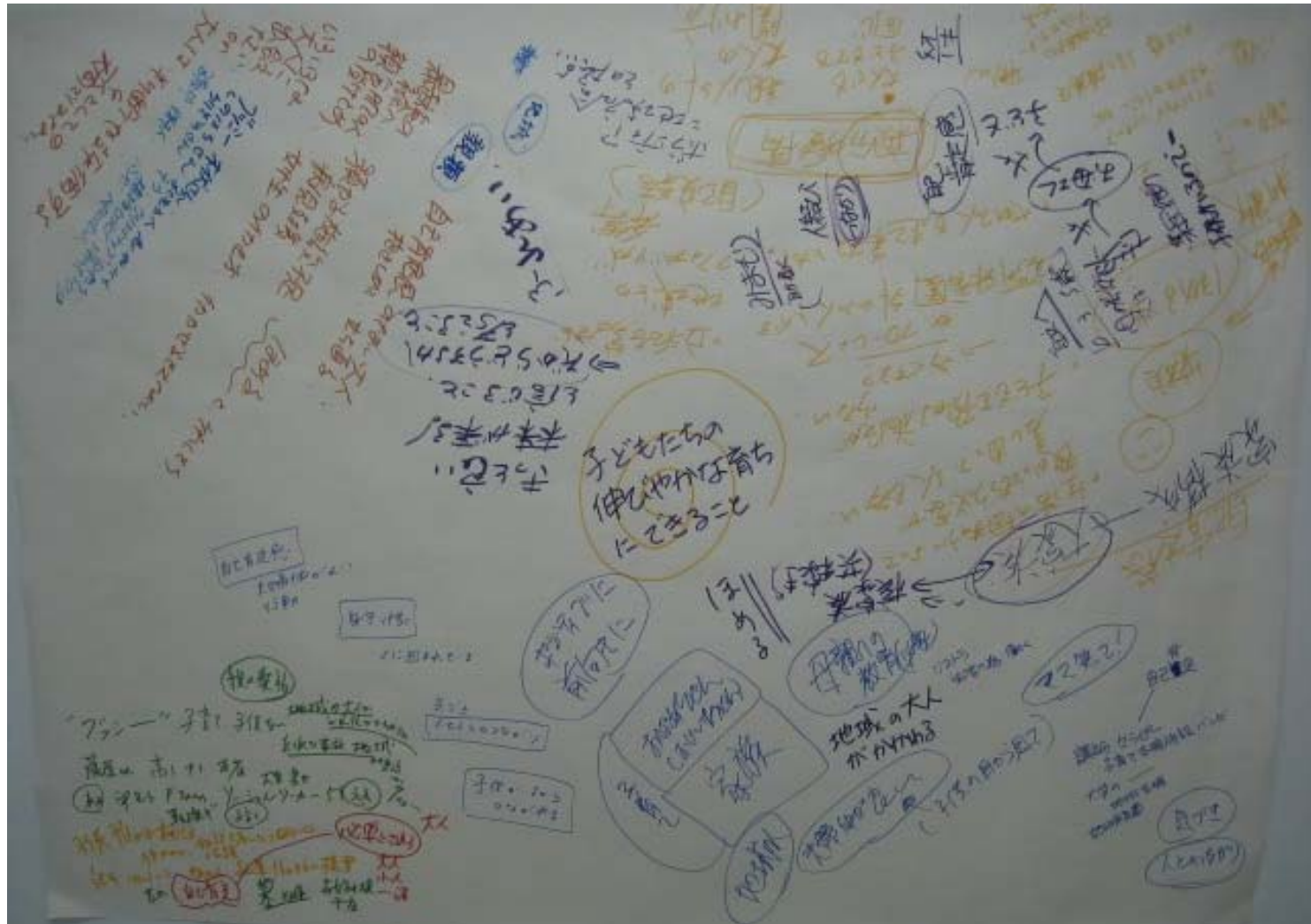
昭和34年生。京都大学医学部卒業。専門は精神病理学、児童思春期精神医療。国立京都病院内科はじめ名古屋大学医学部附属病院精神科等を経て、現職。小学校スクールカウンセラー。児童相談所嘱託医NPO法人 子どもの権利支援センターぱれっと理事長。著書に、『なぜ生きる』(共著)、『輝ける子』シリーズ、『この子はこの子でいいんだ。私は私でいいんだ』、『子育てハッピーアドバイス』シリーズ、『子育てホットトーク』(共著)他 「子どものこころ相談室」読売新聞

人むすびカフェ



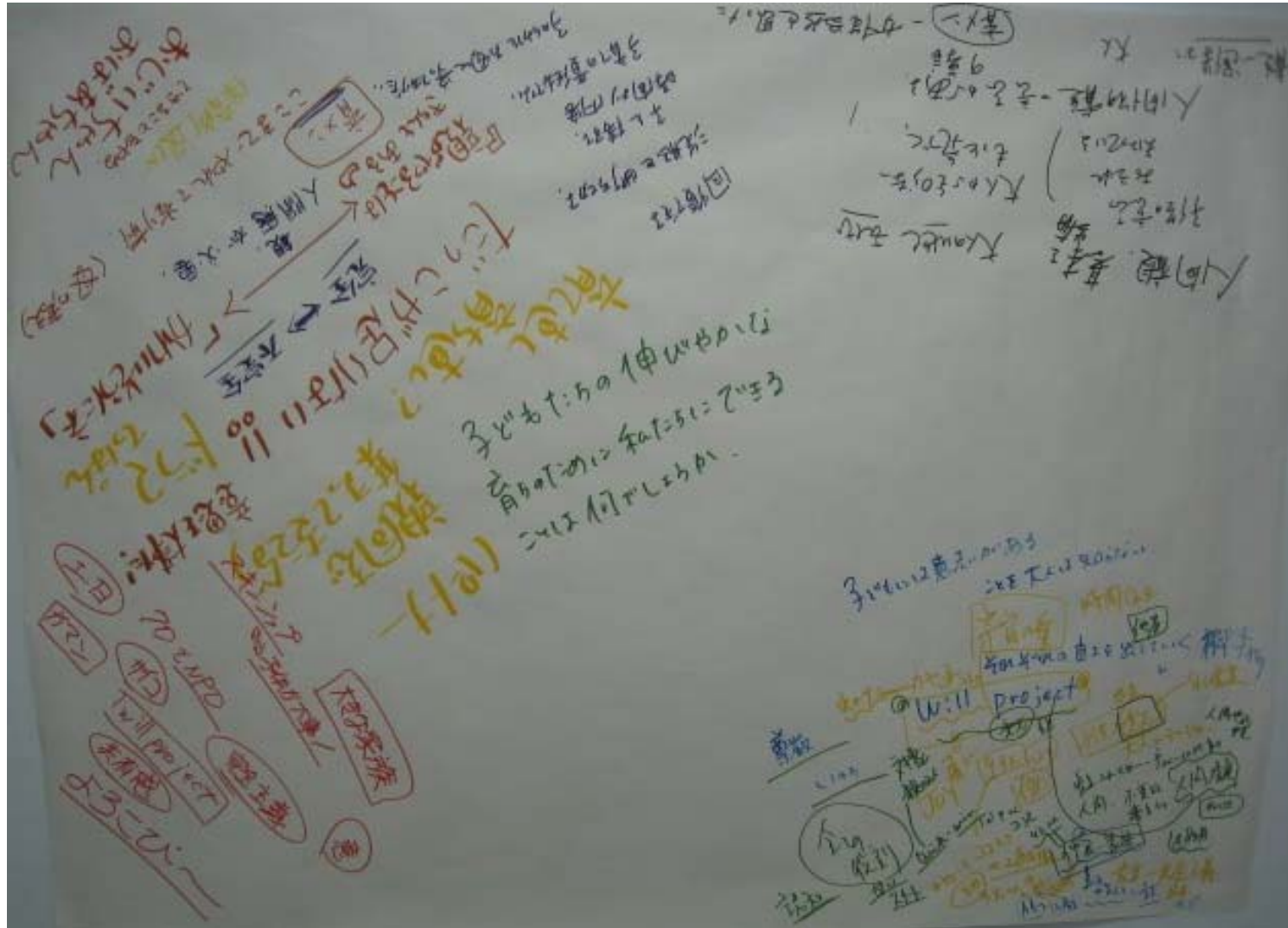
人むすびカフェ

「子どもたちの伸びやかな育ちのために私たちにできることは何でしょうか？」



人むすびカフェ -2

「子どもたちの伸びやかな育ちのために私たちにできることは何でしょうか？」



人むすびカフェ - 3

「子どもたちの伸びやかな育ちのために私たちにできることは何でしょうか？」



人むすびカフェ -4

「子どもたちの伸びやかな育ちのために私たちにできることは何でしょうか？」



本日の感想①

* 今日、どんな気づきがありましたか？

- ・日々、ママたちと話す機会が多いので、子育てには日常あまり関わっていない方の反応が新鮮でした。
- ・ボランティア、地域社会との接点
- ・皆、愛があるなあ！！
- ・色々な方が色々な角度から同じテーマを考えること
- ・人間性の肯定＝意志があることの尊重
- ・真面目に前向きに日本を考えている人がいて、ココに集っている！
- ・自己肯定感の大切さ 自分が思っていた以上に重要だと改めて痛感しました。
- ・話し出すと皆、顔をやわらかくなる。このワールドカフェのやり方がおもしろい。
- ・人のつながりがやはり大事
- ・自己肯定が大切
- ・存在そのものを認める(能力でなく)
- ・皆様、ふかく考えていらっしゃるなど。とてもおもしろかったです。
- ・「本日のお題」で話し合いを前向きにしようと仕掛けがあつたにもかかわらず現状の悪環境などに話が集中する傾向があつたこと自体
- ・「子供がいるからつながれる」それだけで子供の存在価値がありますね。
- ・大人の自己肯定感がキー。

本日の感想②

* 一番、印象に残ったこと(キーワード)はどんなことでしたか？

- ・人のコアを育てること、コアって元々あるのでしょうか。
人のコアをみとめる、受け入れること
- ・意志がある myキーワードのコア育て(コアはもともとある)＝個育てやっています
- ・お母さんはあなたが一番大切
- ・自己肯定感を育ててもらえなかった人が、持てるようになったプロセスが感動的だった。
- ・だっこが足りない！
- ・母親のサポート、子育て支援
- ・それぞれなりにすばらしい いつからでも
- ・ポジティブな考え方と実践
- ・自己評価
- ・お父さんは早く帰る
- ・大人育て
- ・自己評価、自己肯定感、国民性
- ・子供の自己肯定感を育てるには親の自己肯定感を育てること
- ・母親の役割 父親の役割

本日の感想③

* その他、よかったこと、残念だったこと、質問など、ご自由に。

- ・初めて参加したので、はじめ緊張しました。
- ・時間が少ないことが残念。
- ・色々な方の考えや思いを聴くことができたこと
- ・ひとの話を聞く時のエチケット！！学びました。
- ・やはり様々な人の意見を聞くことで、色々な気づきがあった。
- ・明橋先生の絵本の朗読。やはりワールドカフェはたくさんの方と出逢えていいですね。
高重さん、おつかれさま。ありがとうございました。
- ・明橋先生とお会いできたこと
- ・楽しかった。一セッションが短く残念。皆さん心が純粹であたたかくよかった。
ありがとうございました。
- ・又、さらに元気になれます。
- ・ゆとり、甘やかし、との境が分からない。
- ・現状肯定、自国肯定、未来を信じる心などを日本の空気感にすることは結構ハードルが高いなあ、と感じました。が、チャレンジのしがいがあると思います。
- ・人と人のつながりが重要であること改めて思った。

皆さん、ご一緒に場をつくってくださってありがとうございました。